



和歌山県立医科大学様では、LIMEDIO の論文データベース連携機能の利用により、文献依頼業務の効率を大幅に向上させました。これにより、利用者の文献申込の手間だけでなく、図書館職員の作業も大きく軽減されました。



医学・看護学系図書館として 県内医療関係者にサービス提供

和歌山県立医科大学図書館は、医学部キャンパスの紀三井寺(きみいでら)館と保健看護学部キャンパスの三葛(みかずら)館の 2 館で構成されています。それぞれ、医学と看護学の資料を中心とした豊富な蔵書を備えており、大学や附属病院のみならず、和歌山県内の医療関係者による閲覧利用や問い合わせも盛んです。

また、医学・看護学系図書館であるため、特に他図書館との相互協力も活発で、文献複写は依頼・受付とも年間約 4000 件にもものぼっています。また、教職員や大学院生の論文データベースに対するニーズは極めて高く、医中誌 Web や MEDLINE, CINAHL を中心に頻繁に利用されています。

利用者・職員とも手間のかかった 従来の複写依頼

文献依頼を行う場合、利用者(主に教員)は論文データベースにて該当資料の雑誌名・巻号・ページ等を調べることが一般的ですが、

従来はデータベースの検索結果とともに、OPAC で図書館の所蔵を調べた上で、所蔵がない場合はあらためて複写依頼画面に必要事項を全て手入力する必要がありました。

また、図書館では利用者からの依頼内容を、図書館システムにカット&ペーストするとともに、書誌事項等の記載内容が正しいか全てチェックしていました。「たとえば雑誌名が間違っていると、他館に依頼しても謝絶されてしまいますので、従来は依頼前に一つ一つ依頼内容を確認する必要があり、図書館としては非常に負担になっていました。」(志茂様)

文献データベースの検索結果を 複写申込に利用

「図書館では、システムの更新にあたり、必須事項の一つとして、論文データベースと OPAC 及び文献依頼の連携ができるなどを条件としました。」(志茂様)

LIMEDIO では、従来より OVID システムとの連携機能を備えており、OVID のデータベース検索結果を

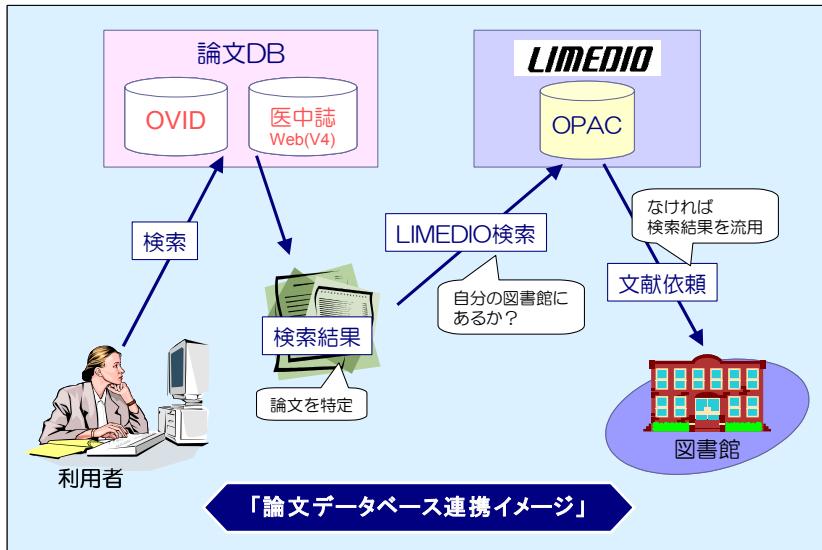
利用して、自館の OPAC 検索と文献依頼への書誌事項の引渡しを行なうことが可能でした。OVID の検索結果画面で所蔵確認用リンクをクリックすると、ISSN が OPAC に引き渡され自動的に所蔵検索を行ないます。また、自館に所蔵がない場合は、OVID の書誌事項が文献依頼画面にコピーされるので、これをを利用して簡単に依頼を行うことができます。

また、2006 年より医中誌 Web も Ver.4 で外部リンク機能が追加されたため、医中誌 Web の検索結果から OPAC 検索と文献依頼用データの引渡しが可能となっています。



図書館 志茂 淳子 様

論文データベース連携により 文献依頼業務を大幅に効率化



作業効率に加え 申込内容の精度も大きく向上

「ただ、従来から利用していたデータベースが図書館システムとどう結びつくのか、なかなか教員の方はイメージがわからないようで、操作マニュアルの作成はもちろんですが、最初は実際に画面を見せながら説明を行い納得していただくようにしました。一度説明すれば、おおむね操作は理解されますので、以降はほとんどの教員の方がこの連携機能を利用して依頼をされています。」(志茂様)

また、論文データベースとの連携は利用者のみならず、図書館にとっても大きなメリットがありました。「各論文のデータベースは専門家が書誌情報を作成しているため、これを流用した依頼情報は必然的に正確な内容となっています。したがって、従来のように依頼内容を

図書館で毎回チェックする必要がなく、そのまま外部への依頼を行うことができます。さらに、LIMEDIOの場合、依頼先候補館が自動的に表示されるので、依頼作業が本当に簡単になりました。従来は図書館に外部依頼専門の職員を置いていましたが、LIMEDIOの利用により大幅に作業を軽減できましたので、他の業務と兼務することが可能となっています。」(志茂様)

2館のシステムもスムーズに統合

和歌山県立医科大学図書館では、従来は各館(紀三井寺館、三葛館)で別々に図書館システムを導入しており、それぞれ独自の運営を行っていたため、様々な制約がありました。そこで、今回の更新では両館のシステムの統合を進め、利用カードやOPACの統一を実現しました。「別々に管理していたデ

ータの統合やコード体系の統一など様々な調整が必要でしたが、リコーのSEの方のアドバイスに基づき進めましたので、非常に順調に新システムに移行することができました。」(志茂様)

「また、パッケージでありながら帳票のカスタマイズも柔軟で、従来作成に苦労していた冊子体の雑誌目録も簡単に作成できるようになりました。あと、やはりLIMEDIO専門のサポートセンターがあり、不具合時なども速やかに対応していただけるのがいいですね。」(志茂様)

さらなる利用者支援に向けて

新システム導入により利用者支援サービスは大きく前進しましたが、図書館では今後より一層の充実を進めていく予定です。「本学で利用している主要な論文データベースとの連携は実現しましたが、さらにCinii等の他のデータベースとの連携もできないかと考えています。また、利用者向けのポータル画面も、今後ますます掲載コンテンツを広げていきたいと思います。」(志茂様)

医学・看護学系図書館として、大学のみならず県内医療関係者の情報の支えとなっている和歌山県立医科大学図書館様。リコーも、業務を効率化しつつ利用者サービスを充実するためのシステムの開発と提供により、今後も一層の支援をさせていただきます。

■ この記事は2007年1月10日の取材に基づいています。



担当SEから一言

利用者が使い慣れている論文データベースの検索結果を文献複写等の申込に流用できる論文DB連携機能の利用により、業務の効率化を進めながら利用者へのサービスを拡大できます。LIMEDIOは、今後も利用者に役立つ便利な機能を提供してまいります。(リコー:中西)

図書館プロフィール

奉仕対象	3,000人
図書館職員(専任)	2人

システム機器構成

業務DBサーバー	1台
検索DBサーバー	1台
業務APサーバー	2台
業務用端末	10台
業務用プリンター	4台
利用者用端末	12台
利用者用プリンター	2台

(2006年3月31日現在)

和歌山県立医科大学図書館のホームページ
<http://opac.wakayama-med.ac.jp/index.html>